



# 4-5月どり寒玉系キャベツ品種の選定と その栽培技術を開発

— 端境期における安定生産が実現します —

## 開発の背景・ニーズ

愛知県のキャベツ生産の特徴は、11月から6月まで長期間出荷されていること、寒玉系品種の割合が多いことが挙げられます。寒玉系キャベツは加工・業務用に利用されることから安定生産が求められますが、4月下旬から5月上旬にかけて端境期があり、その解消が課題となっています。そこで、端境期の解消を目的に、新たな寒玉系キャベツ品種及び栽培方法の開発に取り組みました。

## 成果の内容

4月どりと5月どりの2作型について、それぞれ10種類の中から端境期に収穫可能な新品種「YR503」「NNS-C-91」を選定し、それぞれに適した栽培方法を開発しました。

### ○ 4月どり作型 「YR503」

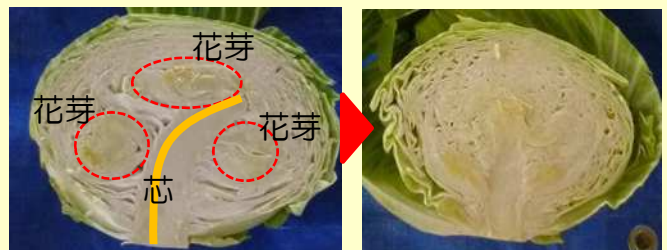
草勢がやや落ち着いているため、小玉になりやすいものの、収穫期の後半まで外観がきれいで結球内部の品質も良好です。株間30cmの定植が適します。

### ○ 5月どり作型 「NNS-C-91」

熟期がやや長くなりますが、強い晩抽性を持つため、薹（とう）が立ちにくく、通常より早い11月上旬に定植することで5月上旬の収穫が可能です。

#### 「YR503」栽培基準（4月下旬収穫）

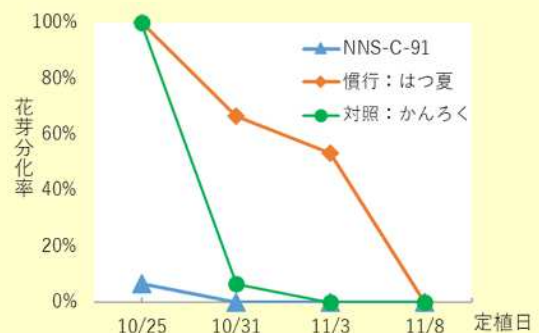
播種・定植	8月下旬播種・9月中旬定植		
栽植密度	5556株/10a（畝間60cm、株間30cm）		
施肥方法	基肥	追肥1	追肥2
	定植時	10月上旬	12月下旬
	14.0kgN/10a	9.6kgN/10a	9.6kgN/10a



対照：冬のぼり

YR503

花芽の状況（8/30播種・9/25定植）



品種による花芽分化率の違い

#### 「NNS-C-91」栽培基準（5月上旬収穫）

播種・定植	10月上旬播種・11月上旬定植		
栽植密度	5556株/10a（畝間60cm、株間30cm）		
施肥方法	基肥	追肥1	追肥2
	定植時	1月下旬	3月中下旬
	8.4kgN/10a	9.6kgN/10a	9.6kgN/10a

## 愛知県農業への貢献

新品種を栽培することで端境期に出荷できるようになり、生産者の所得向上及び産地として安定出荷が期待できます。

【本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「広域・大規模生産に対応する業務・加工用作物品種の開発」で実施した成果です】

東三河農業研究所